

今月、特定の条件下でシステム（自動運行装置）が運転を担う「レベル3」の自動運転機能を採用した車が 2020 年度内に世界で初めて発売される、という報道を目にされた方も多いかと思えます。

本件に関する報道（読売新聞オンライン）

<https://www.yomiuri.co.jp/economy/20201111-OYT1T50201/>

自動運転レベル3とは、「特定の場所でシステムがすべてを操作するが、緊急時はドライバーが運転操作を引き継ぐ」というものです。

運転の主体は同レベル2まではドライバーですが、レベル3はクルマとなります（システムによる監視）。

当該モデルのシステムは、高速道路や自動車専用道路など特定の条件下で、時速30km未満で作動開始し、同50kmまで作動すると公表されています。

上述の状況であればシステムに運転を任せることが可能ですが、緊急時（作動継続が困難な場合）はドライバーが対応することになります。

運転を任せっきりにせず、緊急時に対応できるような「準備」は常に整えておかなければなりません。

筆者は、この「準備」とはどのような状態を指すのか、言葉を換えればシステム作動中にドライバーは何をすることが許されるのかという点に関心があります。

安全確保という点で、非常に難しい線引きとなるのではないのでしょうか。

当該モデルの発表・発売までには、その辺りも明らかになってくると思いますので、注視していきたいと思えます。

尚、政府のウェブサイトでは、自動運転レベル3の解説や同技術搭載車両に関する留意事項を動画等で紹介しています。

以下 URL よりご覧ください。

<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/202004/1.html>

日本自動車教育振興財団 メルマガ事務局

---

本メルマガへのご登録内容の編集・解除は、下記よりお願いします。

▼登録内容編集

<https://matomete-mail.com/bm/p/f/tf.php?id=149239601>

過去に配信したメルマガは、以下 URL よりご覧になれます。

▼バックナンバー

<http://www.jaef.or.jp/7-mail-magazine/index.htm>